

2019年度ミャンマー活動報告

期 間：2019年8月1日～7日

場 所：ヤンゴン

参加者：小久保 謙一（国際委員会）、張 同輝（国際委員会）、宮本 照彦（国際委員会）、徳田 勝哉（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、Thet Thet Lwin（北里大学）、佐藤 幸博（板橋中央総合病院、海外活動ボランティア）、黒田 沙織（静岡済生会総合病院、海外活動ボランティア）、星子 清貴（土谷総合病院、海外活動ボランティア）

8月1日出国、ヤンゴンに到着後、ミャンマーユタニの会議室にて翌日以降のスケジュールと、ハンズオンセミナー及び講演内容のミーティングを実施した。ミャンマーユタニの小丸社長と共に、ミャンマーの透析医療者におけるニーズに対して、答えられるようなプログラムになるよう、夜遅くまで調整した。

8月2日、ヤンゴン専門病院にて透析のプライミングから回収までの現地の業務を視察し、透析患者のVAエコー検査を実施した。特にプライミングの様子は、通常の診療中の病院にて日常的に実施している内容を直接見学させて頂くことができたため、より具体的な改善点の可能性を把握することができた。VAエコーの検査では、例年通り多くの医療スタッフと共に患者の診療を行うことができた。具体的な患者の診療を通して、VA管理の重要性や、検査の意義を伝えることができた。また同時にミャンマーの医師・看護師の興味の高さが感じられた。

8月3日は終日、実際の患者のVAエコー検査、エコー検査手技の体験、エコー下穿刺体験、プライミング手技、感染管理、身体機能検査について医師と看護師に対してそれぞれハンズオンセミナーを実施した。また前日の見学内容をハンズオンセミナーに反映すると共に、ミャンマーの医療スタッフの手技と、日本側の手技を比較しながら、セミナーを実施した。

8月4日は、統計調査の重要性、Dry weight について、身体機能評価の重要性、貧血・MBD・腹膜透析、透析の血管アクセス機能の検査、透析の質の担保のためのスタッフ教育、透析医療における看護師の役割、疲労のモニタリング、水質調査基準作成の重要性について医師と看護師に対して講義を実施した。

8月5日は、ヤンゴン医療技術大学とヤンゴン第二医科大学を表敬訪問後、ノースオカラッパ病院で、ミニセミナーを実施し、同病院透析室見学、ROシステムの清浄化についてディスカッションを行い、ETRFの交換、透析液、RO水のサンプリング、生菌測定を実施した。

8月6日は、交換したETRFのLRV測定などを行った。またサンピア総合病院の新しくなった透析室を見学した。まだリユースの装置が納入されていないため、透析器をシングルユースで使っているとのことであった。

8月7日に全てのプログラムを終え帰国した。

今年は医師と看護師を別会場・別プログラムで実施したことで、特に看護師の参加者と活発な意見交換を行うことができ、事後アンケートの結果も非常に好評であった。各職種に向けたプログラム内容を検討することで、より活発な意見交換が可能であり、今後も継続していく必要が感じられた。

